

平成29年度第3回 青年の家跡地等整備推進会議 会議録

日時：平成29年9月25日（月）
 午後1時30分～午後3時30分
 場所：富士見市役所2階第1会議室

出欠状況

座長					
新井(幸)	吉川	吉野	新井(利)	千種	斉木
○	○	○	○	○	○
佐藤	青木	大塚	水口	斉藤	岩村
○	○	○	○	○	○
事務局	政策企画課（課長・副課長・担当）、協働推進課長、まちづくり推進課長、交通・管理課長、南畑公民館長、(株)オリエンタルコンサルタンツ				

内 容
<p>1 開 会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鯉沼課長 <p>2 あいさつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・島田部長 ・新井（幸）座長 <p>3 意見交換事項（※進行は座長）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催スケジュールについて、資料を基に事務局より説明 <p>（1） 報告事項について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料1に基づき、事務局より説明 <p>（2） 整備素案について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料2に基づき、事務局より説明 <p>○質疑</p> <p>参加者：全体的に良いと思うが、小高い丘を連続させ、既存の木立を利用するなどしてマウンテンバイクで遊べるようにしてはどうか。来場者を増やす方法がなかなか浮かばない。四季を楽しめるようにし、びん沼荘への送迎バスや既存のバス路線を利用し、遠方からも人が訪れてもらえると良い。カヌーをやるなら河川側に出ない区切りを設けてはどうか。</p>

- 事務局：もしカヌーやサップをするならば、何かしら安全上の措置は必要と考える。
- 参加者：デッキの散策路の仕上げを木材にすると、維持費がかかるので留意したほうがよい。
- 参加者：今は全てが網羅されており、コンセプトの立て直しが必要。ここはびん沼自然公園であり、じゃぶじゃぶ池やアスレチックの人工的なものではなく、テーマを「自然」や「食」「農」に絞らないといけないのではないか。グランピングも大型のものだと数多く張れない。北側エリアは狭く全ては入らないため、コンセプトを整理し、取捨選択していくべき。水辺のデッキテラスやバーベキューの必要性は感じるが、じゃぶじゃぶ池の場所は、自然ゾーンと連続しており、コンクリートではなくビオトープなどにしたほうがこの場所にあうと思う。また、水を入れるのは、自然公園に沿うよう流し込んだ方がよい。特に北側は、コンセプトを再考し絞っていくことが必要。施設は飲食機能以外に、自然学習コーナーを設け、解説員を常設できたら良い。そうなれば地域や学校関係者も自然学習ができる。
- 事務局：自然を活かすことを意識しつつ、一方で人を呼ぶ視点も意識し、庁内議論を進めてきた。各施設の規模や法関連などの検証が進んでいない状況であり、今日頂いた意見と併せて、絞り込んだ内容を改めてお示ししたい。
- 参加者：そもそもその機能を入れるべきか否かの議論からすべき。取捨選択を今日進めたほうがよい。コンセプトの立て直しが必要だと思う。
- 参加者：全体として場所が狭く、有名になって人が多く来ると駐車場が足りなくなる。グランピングも狭すぎるし、バーベキュー施設は汚れや火気など管理の問題がある。また、市民がどのように運営に関わっていくのかが見えてこない。野川の事例では、計画を作る団体と市民の管理団体があり、市民と行政で取り決め・役割分担をしたうえで、様々な団体が連携し運営されている。また、一番気になる点として水質が汚いことがある。びん沼川はヘドロが溜まっているようで魚も減っているらしいく、泳げない。ゴミも流れこんでおり、水質改善のために川の管理・掻い掘りは必要で、浄化機能のある葦原も大事。また、レクリエーションを中心に考えすぎると人が多く押しかけ、ゴミの問題で地元の迷惑になってしまう。ある程度の余裕は必要。いかにいい場所にしていくかをもっと長いスパンの中で検討していくべき。さらに、びん沼川沿いの道路は歴史があり景観として大事ではないか。元の荒川の歴史的な景観や郷土史を踏まえた上で良い環境にすべき。元の荒川全体として、この場所がどうあるべきか考えていく必要もあると思うし、国も関わっている荒川ビオトープとの連続性や荒川流域でも考える必要があると思う。まずはできることから、何がここにとって価値があるのかを考えていくべき。
- 座長：この案は前回頂いた意見を集約させたもの。これから取捨選択をしたいと思っている。びん沼川は池のような状態であり、水質は釣り客が投げるエサも影響しているのではないか。農業をやっていく上で、水質上のデータは悪くはないが、捨てられているゴミは多い。川をきれいにする取り組みは必要。

参加者：野川では、ゴミを捨てない、猫のエサやりをしない、清掃する等のルールを作成した。

座長：これだけは絶対に欲しいというものをあげてほしい。

参加者：理想は荒川全体を考えたほうが良いとも思うが、上流の人たちへのメッセージとして、整備することでゴミを防げるなど発信・モデル地域となれば良いと思う。自然学習・観察は盛り込んだ方が良いと思うが、現在の案ではしっかり区域分けされている。自然学習機能は施設内に常設するより、自然の中で解説されるほうが良い。施設は予算や将来のことも考え、大きな施設としないほうが良い。イベント広場での賑わいも必要である一方、来る人に自然の大切さを訴えることも必要。また、駐車場が不足する話があるが、足りなくなるくらい魅力的な整備ができれば、市民に開かれた場所になるのではないか。逆に駐車場が狭いことを考えると現状のままでも良いが、今のままだと自然の弊害もあり地域も心配している。憩い・賑わい・自然の場となってほしい。大型遊具エリアの場所は小高い地形を活かし、ミニ野外コンサートなどができるようにしたらどうか。

参加者：全て実現すれば遊ぶ場所に困るほど楽しいと思うが、確かに狭さを感じる。駐車場など問題点や課題を精査してもらい、今まで来なかった人を呼べるような場所になると良い。野外コンサートや水子貝塚公園の青空シアターなどができれば良いと思う。春から秋はいいが、冬のイメージがわからないことが気になる。

参加者：他市町村へこのエリアが周知されていなかったと思う。新たなものを整備し外から人を呼ぶのか、市民の憩いの場とするのかでも整備の方向性が変わる。デッキテラスや、浮島を繋げられるのはよいと思うが、この場所で飲食店を経営するのは厳しい印象がある。自然を観察・学習ができる場のほうが良いと思う。

参加者：びん沼自然公園自体は整備にあまり手をかけずそのまま残し、子どもがキャンプ・学習できる場とし、将来大人になり残っていてよかったと感じられれば良いのではないか。大型遊具ではなく自然の中で遊べばよく、トイレや炊事場、講義できる場など最低限の設備があれば良い。このような場が減っていることを考えれば自然のままでも良いと思う。

参加者：手をかけないと、葎やゴミは解決されず、子どもたちが遊べる場もない。全部の案を入れていくのは難しいと思う。

参加者：現段階は夢を盛り込んだ状態で、少し絞り込む必要はある。市は交流人口を活かし地域の活性化、地域課題解決もしたいが、一方で維持管理コストは抑えたい。長い期間で検討する話も頂いたが、県事業との連携を考えると期限が定まっている。また、世の中の流れとしてコト体験を買う流れもあり、頂いた意見を踏まえ、地域の活性化、南畑の方たちが喜ぶ場所を考えていきたい。ソフト面や維持管理方法等も含めて総合的に判断していきたい。

参加者：絞り込みは大変だとは思いますが。地域資源でもある「自然」を活かすとしても、

観察だけではもったいない。活性化を考えれば、大勢の人が来ること、特に市街地に住む子どもは体験できる場が大事になる。市のここだからできるというPRと、多くの方が来るのであれば、売り場などによって地域とを繋ぐきっかけになるとよい。ただ整備しただけでは厳しい。

参加者：川の自然再生には時間がかかる。県の川の再生事業は、賑わいの創出と清流の復活の2つがあり、今回の川の国埼玉はつらつプロジェクトは、目に見える成果を出す必要があり、賑わいの創出に軸足を置いている。水質改善や生活排水処理などは長期的な計画で進めており、自然再生については別の枠組みになる。

参加者：現状の水質を踏まえ、直接川の中に入るのではなく、デッキテラスを造り水際近くまで行けて景観を楽しんでもらう考え方と思う。一方で、じゃぶじゃぶ池は、水の中で遊べる場として考えられたもの。優先順位・整備案がこの会議の中で議論され、大きな方向性が決まると思う。今後は県と市で役割分担をし、県は河川管理者として整備していく。例えばデッキは約1億円以上かかると思う。葦原は全体で約40,000㎡あり、1m以上掘削する想定した場合、2億円以上かかる。県全体のバランスも踏まえながら、予算と優先順位を踏まえ考えていきたい。

座長：賑わいに軸を置きたいという話を踏まえ、何をやっていくべきか議論したいところだが、事務局の考えはどうか。

事務局：予算、運営管理、施設ごとのバランスを踏まえて、今日の意見も踏まえ、次回絞り込んだ内容を提示させていただきたい。

座長：絞り込みを今するべきではという意見があったし、この狭い範囲の中でどう整理するか、意見を伺いたい。

参加者：北側のゾーンは賑わい創出の場として納得している。じゃぶじゃぶ池の場所は、田んぼに馴染みのない方向けに、田園とビオトープをセットにし、南畑の人の力もお借りして農業体験をし、地域とのつながりを持てるような場にしたらどうか。また施設の中に、富士見市なので富士山や荒川・びん沼が見える眺望・タワー施設を検討してはどうか。

座長：今後どうまとめていくのか。

事務局：北側のエリアを軸に考えていきたい。北側を中心に、次回絞り込んだものを提示したい。本整備は跡地と河川の一体整備が前提にあるので、北側エリアにある施設とイベント広場、河川沿いのデッキテラスを優先的に考えていきたい。遊具エリアは日常的に子どもが集まることを考え配置したが、場所等は精査していきたいと思う。

座長：次回会議では、市と県の考え・整備内容を示し、それらを踏まえ皆様から意見を出していただき決定していきたい。場合によっては、会議の回数を増やすことも検討する必要がある。

(3) 関連する事業について

・事務局より説明

ハード事業と連動してソフト事業の検討が必要。庁内での検討も進めているところであり、ソフト事業についても、次回以降あわせて案を提示していく。

(4) 次回会議の日程について

- ・平成29年11月13日（月）13時30分～、場所は後日連絡。

4 閉会

- ・鯉沼課長